



親しまれ守られてきた伝統行事

熊野神社春季大祭・4/29

No.6

西城町の熊野地域で、古事記1300年の歴史を誇る熊野神社の春季大祭、通称「おくまのさん」が開催されました。「おくまのさん」は、「ちりげ（子どものかんしゃく）封じ」の祈願が行われることでも知られています。

「おくまのさん」では、中国地方の川の最上流に生息し、幻の魚といわれるゴギの塩焼きやイザナミ茶屋特製のおこわや鳥の燻製、あんこ餅などのバザーが開かれ、来場者は舌鼓を打ちました。また、西城川太鼓の演奏や西城町神楽愛好会による神楽奉納、イベントの最後に地域の特産品が当たる福餅まきなどが行われました。

当日は、天候にも恵まれ桜が舞い散る中、家族連れなど多くの来場者でにぎわいました。



▲多くの人に見守られながら神楽奉納が行われた

さとやまの魅力再発見!

逆手塾 里山祭 2017・4/23

No.8

総領町の和田芳治さん宅を会場に、住民グループ「逆手塾」主催の「里山祭 2017」が開催されました。この催しは、中山間地域のにぎわい創出を目的に広島県が実施している「ひろしまさとやま未来博 2017 ココロザシ応援プロジェクト」に採択されています。

会場では廃材のペール缶を用いたエコストーブづくり、ピザ・燻製教室などが行われたほか出店もあり、多くの人でにぎわいました。

また、会場近くの木屋川では、囲いの中に放流した錦鯉の幼魚を網ですくう「鯉すくい」も行われました。参加した子どもたちは「川の水が思ったより冷たく、気持ちよかった」などと笑顔で話し、里山の自然を満喫していました。



▲廃材のペール缶を重ねたりしてエコストーブを作った

中山間地域の医療に力を尽くす

「ふるさと枠」第1期生の医師が市長を表敬訪問・5/8

No.5

広島県内の中山間地域の医師確保を目的として、広島県と広島大学が平成21年度に開始した広島大学医学部「ふるさと枠」の第1期生5人のうち、庄原赤十字病院に配属された医師2人が、同病院の中島浩一郎院長と共に木山耕三市長を表敬訪問し懇談を行いました。

循環器内科の板倉文乃医師は「地域のために頑張りたい」、内科の宮本亮医師は「総合的な診療ができる医師を目指したい」などの抱負を述べました。

木山市長は、「将来、中山間地域の医療機関を支えてもらいたい」と伝えました。



▲宮本医師(左)と板倉医師(中)が抱負を木山市長に伝えた

森林の大切さを学ぶ

釜峰山森林教室・4/28

No.7

口和町湯木にある釜峰山森林浴公園で森林教室が開催され、口北小学校の児童40人が参加しました。参加した児童は、広島北部森林管理署や備北森のサポートの方から公園にある国有林の紹介を受けたり、紙芝居やクイズ形式で釜峰山の動植物のことや森の保水作用のことなどの説明を受けたりしながら、森林の大切さを楽しく学びました。

その後、児童は、樹木に直接触れたり、途中にある施設についての説明を聞いたりしながら、釜峰山展望台まで約1時間かけて、元気いっぱいに登りました。

広島北部森林管理署の方は「このような体験をしながら、子どもたちに森林の大切さを知ってもらいたい」と話していました。



▲児童は紙芝居などで森林について学んだ

観光シーズンの幕開けを告げる

帝釈峡湖水開き・4/29

No.2

絶好の行楽日和の中、新緑が鮮やかな神龍湖畔で「第50回帝釈峡湖水開き」が行われました。

今シーズンの安全を祈願する神事をはじめ、「トレイルセンターしんりゅう湖」前広場では、比婆荒神神楽や鬼神太鼓などのステージイベント、新酒まつりや地域食材を利用した食の提供などのフードブースが開設されたほか、カヤックなどのアウトドア体験や宝探しなど、一日を通してさまざまな催しが行われ、多くの観光客でにぎわいました。

神龍湖では、龍をかたどった龍船が紅白の煙を吐きながら登場すると、観光客から一斉に歓声が上がり、観光シーズンの幕開けを祝いました。



▲龍船が紅白の煙を吐きながら登場した

日本一の刀匠

新作名刀展「高松宮記念賞」受賞を報告・5/1

No.4

西城町在住の刀匠・久保善博さんが、日本美術刀剣保存協会が主催する「新作名刀展」で第1席に当たる「高松宮記念賞」を受賞し、その報告のため木山耕三市長を訪問しました。

久保さんは室町時代以前に用いられていた長くてそりが強い「太刀」を出品。当時の太刀に見られる、「刃文」の近くに白くかすみのように浮かびあがる「映り」を再現し、28作品の中から本賞に輝きました。久保さんは「古い刀の魅力は『地鉄』。今後は『刃文』や『映り』だけでなく、『地鉄』についての研究をし再現したい」と話していました。

久保さんの本賞受賞は2回目で、今後出品した際に審査なしで展示される「無鑑査」に認定されました。



▲太刀を手にとる木山市長に「映り」の解説をする久保さん

吾妻山に咲くスマレ

比和自然科学博物館 スマレ観察会・5/7

No.1

春の暖かさが広がる吾妻山で、比和自然科学博物館主催のスマレ観察会が行われました。2回目の開催となる今回は、前回より参加希望者が増え、市内外から約30人が参加しました。

参加者は初めにインストラクターからスマレの花のつくりや見分け方の説明を受け、各々で観察を開始。この日は、吾妻山でよくみられるダイセンキスマレをはじめとした12種類のスマレが確認されました。参加者は「スマレは紫色の花というイメージがあったが、黄色や白などさまざまな種類があることを知った。観察する中で、小さい可愛らしい花でも、自然の中で生きていく力強さを感じた」と話していました。



▲観察前にインストラクターからスマレについての説明を受けた

田植えを通して里山体験

たかの体験 田植え・5/14

No.3

上高自治振興区が主催する「たかの体験 田植え」が高野町新市の宇山勝守さんの田んぼを借りて開催され、市外から17人5家族が参加しました。このイベントは、里山の魅力を多くの人に知ってもらおうと企画しているもので、里山にある資源を活用し、中山間地域を未来へつなぐ地域づくりとして広島県が実施している「ひろしまさとやま未来博2017 ココロザシ応援プロジェクト」に採択されています。

参加者は、はだしで田んぼに入り、手植えや田植え機乗車体験をしたり、カエルなどを触ったりしていました。昼食は、高野産の米を羽釜で炊いて作った肉みそおむすびや豚汁、地元の人が作った新鮮野菜や漬物が振る舞われ、参加者は里山体験を満喫していました。



▲苗を植える子どもたち